
医学部看護学科

1 教育・研究の理念・目標等

1 教育・研究の理念と目標

近年の医療・福祉を取り巻く環境の変化に対応し、多様な社会的要請に応えるため、21世紀の医療に向けて、豊かな感性と人間性を備え、日々進歩する知識や技術を修得・発展させる能力や、地域に即した保健医療活動の中心的役割を果たすことのできる資質の高い看護職を育成する。

人権と命に対する尊厳と、豊かな感性と倫理観を身につけた人格の形成

総合的な人間理解の能力の育成

自主性かつ創造力を持ち、主体的に判断・実践ができる問題解決能力の育成

看護専門職として、科学的知識・技術を修得し、それを探求していくことができる能力の育成

看護の役割を認識し、ケアチームの一員として活躍できる能力の育成

2 教育・研究の活性化と充実の経過

急速な少子・高齢化による人口構成の変化、疾病構造の変化、また人々の健康への関心の高まりなどにより、医療を取り巻く社会環境は著しく変貌してきている。慢性疾患や老化による障害を抱えて生活する人々が増加するにつれ、療養生活の質、生命の尊厳の本質が改めて問い直されるようになった。このように拡大し複雑化する社会的ニーズに応えていける看護者を育成するには、豊かな感性と深い倫理観に裏付けられた人間性、専門的知識・技術と実践力を備え、問題解決能力を身につけることが課題となる。

このため1年次生から医療・看護への関心を高めるため、初期体験実習や総合科目(医療と生命)、医学概論など医学科学生との合同授業を開講している。また、専門教育の基盤となる教養教育は1、2年次に全学部生を対象とした全学共通教育を受講する。

問題解決能力、主体的に学習する能力育成のために1年次からテューリアル教育を主体とした少人数教育を実施している。現在、3年次まで学年進行しているが、専門教育が進み、臨地における看護学実習が開始されている。第3年次編入学生も受け入れ、選択学生が対象であるが、平成15年度から助産課程が開始されている。4年次の完成年次まで準備したカリキュラムを順次実施していく。

3 教育・研究の将来構想

(1) 基本理念

わが国における医療・福祉の状況は、近年大きく変化している。医学の進歩と医学を取り巻く諸科学の発展、さらに急速な高齢化などの社会環境の変化に伴い、医療の世界も多様化し、治療とともに援助サービスが重視されるようになってきた。医療における看護の役割は、今後さらに拡大・複雑化していくことは明らかであり、21世紀に向けて、豊かな感性と人間性を備えた資質の高い看護職の育成が不可欠となる。

これらの社会的要請に応えるため、日々進歩する医療の知識・技術に対応し、さらに発展させる能力を持った人材、地域の実情に即したきめ細やかな保健医療活動の中心的役割を果たせる人材を養成するとともに、看護教育及び研究・研修の拠点となり、生涯学習に貢献することのできる、社会に開かれた看護学科を目指すことを基本理念とする。

(2) 教育体制

21 世紀の医療は、治療水準の向上とともに、あらゆる健康レベルの人々を対象とした、保健・医療・福祉が連携した良質できめ細やかな援助サービスが要請される。医療における看護の責任は今後ますます重く、社会の要請に応えるため、次のような人材の育成と学問的基盤の確立を目標とする。

全人的医療を担い得る豊かな感性と人間性を備えた人材

高度医療の一環を担い得る資質の高い人材

保健・医療活動に指導的役割を果たせる人材

看護学における学問的基盤を確立できる人材

広い視野を持ち、国内外で活躍できる人材

医学部医学科との緊密な協力体制を築き、総合大学としてのメリットを十分に生かした教育・研究を行っていく。「健康」を視座にすえた統合カリキュラムで育った問題解決能力や判断能力、応用能力のある人材の育成により、地域で保健医療に係わる人々とともにケアチームを作り、生涯学習を続けていける体制整備を目指す。

(3) 研究体制

看護学の研究は、関連諸科学との連携、特に保健・医療分野との共同研究は必須である。臨床、地域における看護職との研究は看護の研究の本質的意義を有するものであり、各講座、分野の特色の中で推進していく。看護の対象や役割の拡大により、健康支援や生活への援助から、教育・福祉・経済・情報などと連携していく必要性が高まっている。学内外において関連する学問分野、他の専門職との連携を密にし、学際的かつ効率的な共同研究を推進していく。また、大学院修士課程（看護学専攻）の設置により、より高い専門性を追及した教育・研究の充実を図っていく。